

第3四半期報告書

本書は、EDINET (Electronic Disclosure for Investors' NETwork) システムを利用して金融庁に提出した第3四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものであります。

株式会社角川グループホールディングス

(E00729)

目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
(1) 【株式の総数等】	5
【株式の総数】	5
【発行済株式】	5
(2) 【新株予約権等の状況】	5
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	5
(4) 【ライツプランの内容】	5
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	5
(6) 【大株主の状況】	5
(7) 【議決権の状況】	6
【発行済株式】	6
【自己株式等】	6
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期連結財務諸表】	8
(1) 【四半期連結貸借対照表】	8
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	10
【四半期連結損益計算書】	10
【第3四半期連結累計期間】	10
【四半期連結包括利益計算書】	11
【第3四半期連結累計期間】	11
【注記事項】	12
【セグメント情報】	12
2 【その他】	13
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	14

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月12日
【四半期会計期間】	第59期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	株式会社角川グループホールディングス
【英訳名】	KADOKAWA GROUP HOLDINGS, INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 辰男
【本店の所在の場所】	東京都千代田区富士見二丁目13番3号
【電話番号】	03(3238)8401(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役統括マネジャー 高山 康明
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区富士見二丁目13番3号
【電話番号】	03(3238)8561
【事務連絡者氏名】	取締役統括マネジャー 高山 康明
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第58期 第3四半期 連結累計期間	第59期 第3四半期 連結累計期間	第58期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 12月31日	自平成24年 4月1日 至平成24年 12月31日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高（百万円）	107,551	121,170	147,392
経常利益（百万円）	5,926	6,155	5,905
四半期（当期）純利益（百万円）	3,503	3,001	3,604
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	2,719	4,092	2,980
純資産額（百万円）	76,789	80,223	77,050
総資産額（百万円）	131,613	129,451	128,751
1株当たり四半期（当期）純利益 （円）	136.38	115.95	140.03
潜在株式調整後1株当たり 四半期（当期）純利益（円）	120.32	102.65	124.18
自己資本比率（％）	57.7	61.3	59.2

回次	第58期 第3四半期 連結会計期間	第59期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成23年 10月1日 至平成23年 12月31日	自平成24年 10月1日 至平成24年 12月31日
1株当たり四半期純利益（円）	24.15	54.08

（注）1．当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2．売上高には、消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第3四半期連結累計期間（以下「当期」という。）におけるわが国経済は、個人消費が内需を牽引し復調の兆しを見せておりましたが、欧州債務問題や円高・デフレ基調の継続等により不安定な状態で推移いたしました。

こうした環境下、当社グループは出版事業を軸にしながら、その事業領域に留まらずコンテンツを多メディアへ有機的に展開することで、先進的な総合メディア企業への変貌を遂げるため、積極的に諸施策を推進しております。特に、AmazonによるKindleストアの日本市場でのオープンにより飛躍的な成長が現実味を帯びてきた電子書籍市場に対しては、独自の配信プラットフォーム「BOOK WALKER」を中心にデジタルコンテンツの充実と拡販を進めております。新規電子書籍ストアに対しても出版業界の先頭に立って意欲的に作品の供給を行っております。

書籍関連では、シリーズ作品の拡充及びメディアミックスを展開することで一般文庫が引き続き好調を持続しております。また、メディアファクトリーのグループ入りでより強固なシェアを獲得したライトノベルも堅調に推移しております。一方、コミックスは、新規作品の積極的な投入、新人作家中心のフェア企画等の施策が重版に結びつかず、返品率が上昇し利益の圧迫要因となりました。

雑誌・広告関連では、市場環境の悪化は依然継続しておりますが、固定費削減など効率化を徹底し、収益力は回復に向かっております。また、スマホ向けサービスによるネット上での既存ブランド活用や、ソーシャルメディアとの協業による新たな広告モデルの創出に取り組んでおります。

映像関連では、劇場映画「貞子3D」の大ヒットやアニメ作品のパッケージ販売が売上増に寄与し、利益貢献への転換を果たしております。引き続き保有するIPの活用、出版と映像のシナジーの最大化で堅実なビジネス基盤の確立を目指してまいります。

ネット・デジタル関連では、出版が創出するコンテンツの展開を加速させております。特に「BOOK WALKER」において継続的なキャンペーンや作品投入を進め、売上高の記録更新を続けております。また、新規電子書籍ストアともいち早く交渉を行い、オープン時より多くの作品を供給いたしました。その結果、各ストアで年間ベスト作品の多数を占め、電子書籍市場における存在感を示すことができました。

海外関連では、台湾における出版事業が堅調に推移し、香港でも映画市場の盛り上がりを実感しております。また、ゲーム事業も順調に推移し売上、利益とも伸ばしております。

この結果、当期の連結業績は、売上高1,211億70百万円（前年同期比12.7%増）、営業利益55億17百万円（前年同期比0.1%減）、経常利益61億55百万円（前年同期比3.9%増）、四半期純利益30億1百万円（前年同期比14.3%減）となりました。

なお、セグメント情報との関連は、単一セグメントであるため記載を省略しております。

各ジャンルにおける売上貢献作品は次のとおりであります。

（単行本）

「上昇思考」長友佑都、「光圀伝」沖方丁（角川書店）

「とびだせ どうぶつの森 かんべきガイドブック」（エンターブレイン）

「とびだせ どうぶつの森 ザ・コンプリートガイド」（アスキー・メディアワークス）

「20歳若く見えるために私が実践している100の習慣」南雲吉則（中経出版）

(文庫)

「天地明察(上)(下)」沖方丁、「おおかみこどもの雨と雪」細田守(角川書店)

「ピブリア古書堂の事件手帖」三上延(アスキー・メディアワークス)

(ライトノベル)

「ソードアート・オンライン」川原礫(アスキー・メディアワークス)

「僕は友達が少ない」平坂読(メディアファクトリー)

「ハイスクールD×D」石踏一榮(富士見書房)

(コミックス)

「新世紀エヴァンゲリオン」貞本義行(角川書店)

「テルマエ・ロマエ」ヤマザキマリ、「乙嫁語り」森薫(エンターブレイン)

「あたしんち」けらえいこ(メディアファクトリー)

(劇場映画)

「貞子3D」「図書館戦争 革命のつばさ」「天地明察」「ハンガー・ゲーム」(角川書店)

(DVD、Blu-ray)

「氷菓」「ストライクウィッチーズ劇場版」「メン・イン・ブラック3」(角川書店)

「僕は友達が少ない」「アクエリオンEVOL」(メディアファクトリー)

(ゲーム)

PS Vita「Fate/stay night[Realta Nua]」(角川書店)

3DS「AKB48+Me」(エンターブレイン)

PS3、Xbox360「LOLLIPOP CHAINSAW」(角川ゲームス)

(2) 財政状態の分析

資産は、前連結会計年度末に比べて7億円増加し、1,294億51百万円となりました。受取手形及び売掛金並びに繰延税金資産が減少したものの、現金及び預金並びに投資有価証券が増加しました。

負債は、前連結会計年度末に比べて24億72百万円減少し、492億28百万円となりました。賞与の支給により賞与引当金が減少したことに加えて、未払費用等のその他流動負債が減少しました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて31億72百万円増加し、802億23百万円となりました。四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことに加えて、その他有価証券評価差額金が増加しました。

自己資本比率は、前連結会計年度末に比べて2.1ポイント上がり、61.3%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。また、新たに発生したのものもありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 生産、受注及び販売の実績

当第3四半期連結累計期間において、生産実績、商品仕入実績及び販売実績が著しく増加しております。これは、(株)メディアファクトリーを平成23年11月15日より連結の範囲に含めたことによるものであります。

なお、セグメント情報との関連については、単一セグメントであるため記載を省略しております。

(6) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画は、以下のとおりであります。

なお、セグメント情報との関連については、単一セグメントであるため記載を省略しております。

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定金額		資金調達 方法	着手及び完了予定年月	
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着手	完了
グロービジョン(株)	スタジオビル (東京都 千代田区)	新社屋及び スタジオ設備	1,248	-	自己資金	平成25年 9月	平成27年 3月

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	27,260,800	27,260,800	東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	27,260,800	27,260,800	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成25年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数 (株)	発行済株式総数 残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	-	27,260,800	-	26,330	-	27,375

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、該当事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 1,377,400	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 25,822,100	258,221	同上
単元未満株式	普通株式 61,300	-	同上
発行済株式総数	27,260,800	-	-
総株主の議決権	-	258,221	-

（注）「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が300株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数3個が含まれております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
株式会社角川グループホールディングス	東京都千代田区富士見二丁目13番3号	1,377,400	-	1,377,400	5.05
計	-	1,377,400	-	1,377,400	5.05

（注）当第3四半期会計期間末日現在の自己株式数は、1,377,400株であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,245	17,775
受取手形及び売掛金	44,315	41,843
有価証券	601	-
たな卸資産	14,061	13,355
繰延税金資産	4,544	3,609
その他	3,578	3,032
貸倒引当金	110	64
流動資産合計	79,235	79,551
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,234	7,816
工具、器具及び備品(純額)	1,749	1,638
土地	10,497	10,497
その他(純額)	720	597
有形固定資産合計	21,202	20,548
無形固定資産		
のれん	892	705
その他	2,250	2,575
無形固定資産合計	3,142	3,280
投資その他の資産		
投資有価証券	13,880	15,053
繰延税金資産	1,946	1,578
その他	9,608	9,734
貸倒引当金	264	295
投資その他の資産合計	25,170	26,070
固定資産合計	49,515	49,900
資産合計	128,751	129,451

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,780	19,414
短期借入金	121	60
未払法人税等	681	616
賞与引当金	1,366	656
返品調整引当金	3,905	4,058
その他	10,273	9,119
流動負債合計	36,129	33,926
固定負債		
新株予約権付社債	11,000	11,000
長期借入金	175	197
繰延税金負債	349	213
退職給付引当金	2,616	2,710
その他	1,429	1,179
固定負債合計	15,570	15,301
負債合計	51,700	49,228
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,330	26,330
資本剰余金	27,375	27,375
利益剰余金	30,695	32,748
自己株式	3,932	3,932
株主資本合計	80,468	82,522
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	885	115
土地再評価差額金	328	328
為替換算調整勘定	3,023	3,008
その他の包括利益累計額合計	4,236	3,221
少数株主持分	819	922
純資産合計	77,050	80,223
負債純資産合計	128,751	129,451

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	107,551	121,170
売上原価	79,191	90,269
売上総利益	28,359	30,900
返品調整引当金戻入額	3,906	3,905
返品調整引当金繰入額	4,225	4,058
差引売上総利益	28,039	30,747
販売費及び一般管理費	22,513	25,229
営業利益	5,525	5,517
営業外収益		
受取利息	36	38
受取配当金	169	175
負ののれん償却額	61	61
持分法による投資利益	-	123
受取保険金	48	171
古紙売却益	124	132
その他	115	53
営業外収益合計	555	756
営業外費用		
支払利息	109	98
持分法による投資損失	33	-
その他	11	20
営業外費用合計	154	119
経常利益	5,926	6,155
特別利益		
持分変動利益	-	115
退職給付制度改定益	19	-
災害損失引当金戻入額	306	-
その他	5	1
特別利益合計	330	116
特別損失		
固定資産除却損	178	38
減損損失	-	124
投資有価証券評価損	872	976
出資金評価損	8	-
会員権評価損	14	9
特別退職金	45	84
その他	0	7
特別損失合計	1,120	1,241
税金等調整前四半期純利益	5,137	5,030
法人税等	1,530	1,957
少数株主損益調整前四半期純利益	3,607	3,073
少数株主利益	103	72
四半期純利益	3,503	3,001

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,607	3,073
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	219	1,000
為替換算調整勘定	637	17
持分法適用会社に対する持分相当額	31	1
その他の包括利益合計	887	1,018
四半期包括利益	2,719	4,092
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,649	4,016
少数株主に係る四半期包括利益	69	75

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	1,495百万円	1,688百万円
のれんの償却額	147百万円	205百万円
負ののれんの償却額	61百万円	61百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月25日 定時株主総会	普通株式	880	35	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成23年5月26日開催の当社取締役会決議に基づき、同年6月13日付で株式会社ドワンゴを割当先とする自己株式処分を実施いたしました。この結果、前連結会計年度末に比べて自己株式が2,082百万円、資本剰余金が329百万円、利益剰余金が36百万円それぞれ減少し、株主資本が1,716百万円増加しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月23日 定時株主総会	普通株式	905	35	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)及び

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

当社グループは出版物、映像等のコンテンツの開発、制作、仕入、販売及びその付帯業務を主な事業とする単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年12月31日)
(1) 1 株当たり四半期純利益	136円38銭	115円95銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益 (百万円)	3,503	3,001
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益 (百万円)	3,503	3,001
普通株式の期中平均株式数 (千株)	25,689	25,883
(2) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益	120円32銭	102円65銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額 (百万円)	59	61
(うち支払利息 (税額相当額控除後) (百万円))	(59)	(60)
(うち事務手数料 (税額相当額控除後) (百万円))	(0)	(0)
普通株式増加数 (千株)	3,925	3,950
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月12日

株式会社角川グループホールディングス

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 水谷 英滋 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 縄田 直治 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石野 研司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社角川グループホールディングスの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社角川グループホールディングス及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。